

# MSPC 株式会社

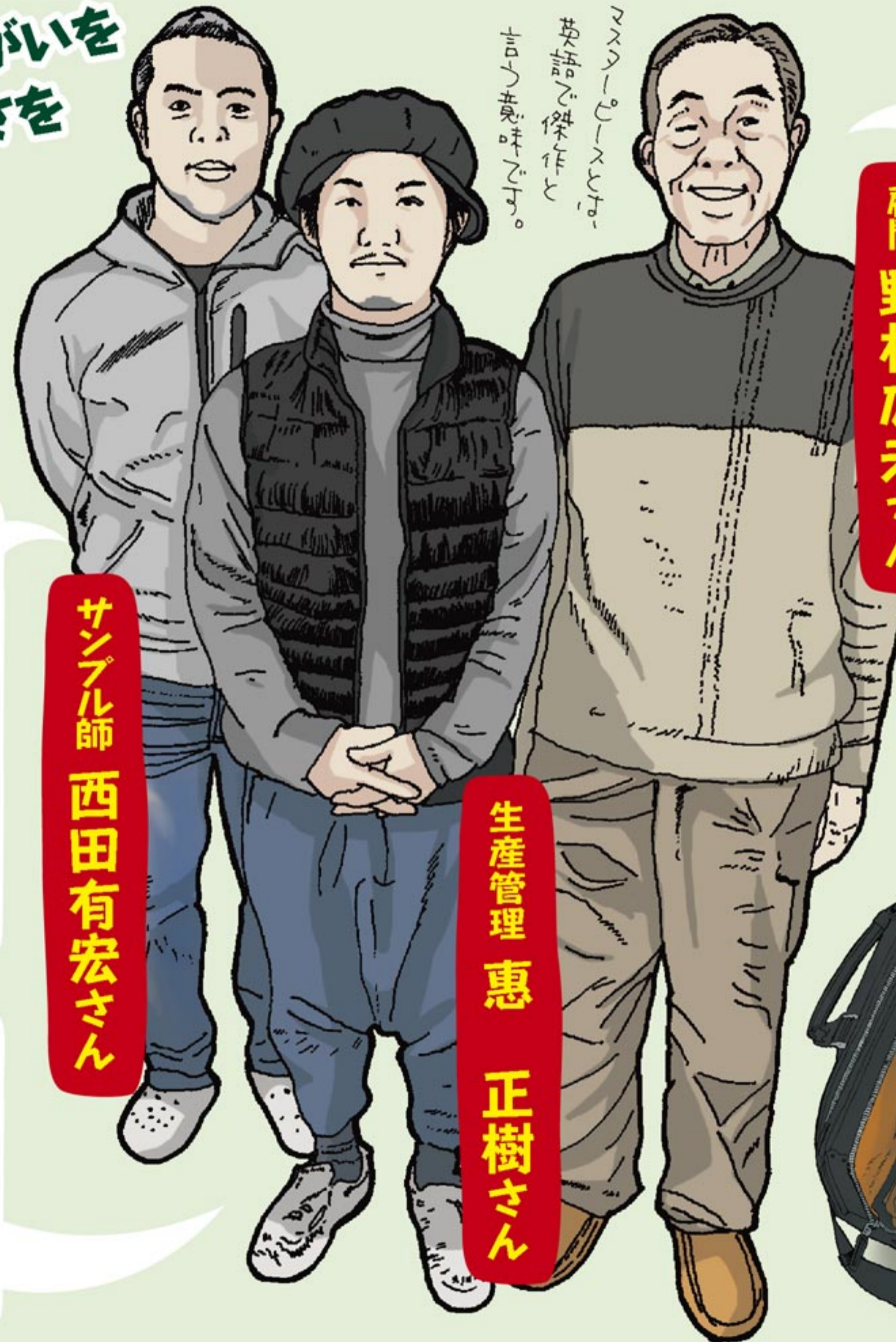
# BASE OSAKA

ブランドを背負う大きなやりがいを  
感じながら、ものづくりの良さを  
リアルに実感しています。

修理後にお客様から「大切にしていたものが、  
とてもきれいになってありがとうございます」と  
感謝の手紙が届いた。

サンプル部は、新作を発表する展示会に向けて、デザイン画をもとに製作します。生地や形によっては縫製する側の意見を交えつつ形にしていきます。また、デザイン画には縦、横、まちの寸法が書いてある平面図で、それを立体的に形づくりのがむずかしいんです。だからこそ、曲線のイメージや背負った時の雰囲気、どのような使い方を考えているのか、どんなシルエットを想定しているのかをデザイナーに確認し、ニュアンスをくみとり、立体的な形を頭でイメージするようにしています。

今では男性用バッグもファッションアイテムのひとつとして捉えられていますが、マスターピースが誕生した1994年当時は、メンズバッグのファッションに特化したブランドがあまりありませんでした。それに対し、男性用バッグをファッションアイテムとして扱ってもらえるよう、機能をもたせつつファッション性の高いアイテムを提案しました。



サンプル師 西田有宏さん

生産管理 恵 正樹さん

顧問 野村広夫さん

英語で傑作と  
言っているんですよ。

もともと日本では、革で作るのはランドセルやハンドバッグ、男性用バッグはナイロンでつくるもの、と区別されていたんです。男性用で革を使うと、色落ちしたり、布を縫っていたミシンではうまく縫えなかったりしたんですわ。最初からうまくできなくても、縫製や素材の加工でなんとかバッグに仕上げられる。そうやって、ひとつひとつ技術を積み重ねてきました。

強度 撥水性  
軽量性にこだわった  
機能素材やオリジナルの  
パーツを使用。



日本製だからって、  
伸ばずやんちんぱんちんぱん  
細い部分の西田も  
徹底して5mm。

トリアックスの  
展開して5mm。

## メイド・イン・ジャパンを誇りに デザイン×機能あふれるバッグを製造

BASE OSAKA が生産するメンズバッグブランド「master-piece (マスターピース)」。日本製にこだわり、高いデザイン性と機能性を持ちあわせたバッグが、絶大な人気を集めている。ファッションアイテムとしての男性向けバッグを製造するにあたり、直営工場である「BASE OSAKA」が大きな役割を果たしている。かつては企画、デザインは社内で、製造は協力会社に依頼していたが、バッグの製造工場は後継者不足などで廃業する企業が増え、同社の協力会社も同様の状況。安定した製造体制を確立するには、自社で工場をもち自ら技術の継承を行っていくことが不可欠であると考えようになった。日本のブランドとしてMADE IN JAPANを継続していくために、生野区に「BASE OSAKA」を設立した。

ものづくりの世界は、先輩職人の仕事を見て覚える、と思われがちだが、この会社は違う。教えたくてたまらない人ばかり。ただ、ファッション業界の華やかな面ばかりをイメージするとそれも違う。実務は縫製業なので地味な作業も多い。リアルにもものづくりの良さを実感し、ブランドを背負う大きなやりがいを感じたいというスタッフが集まっている。

現在、企画やデザイン部門などは大阪市中央区にある本社にあり、それに対し“拠点”という意味の“BASE”をネーミングに付した。BASE OSAKA では、パートスタッフを含め38名のスタッフがバッグ製造に携わる。外観は普通の町工場という雰囲気だが、ここからマスターピースというブランドを生み続けている。

**MSPC株式会社 BASE OSAKA**

<http://master-piece.co.jp/>  
〒544-0011 大阪市生野区田島6-9-3  
TEL 06-6752-2611 FAX 06-6752-2621

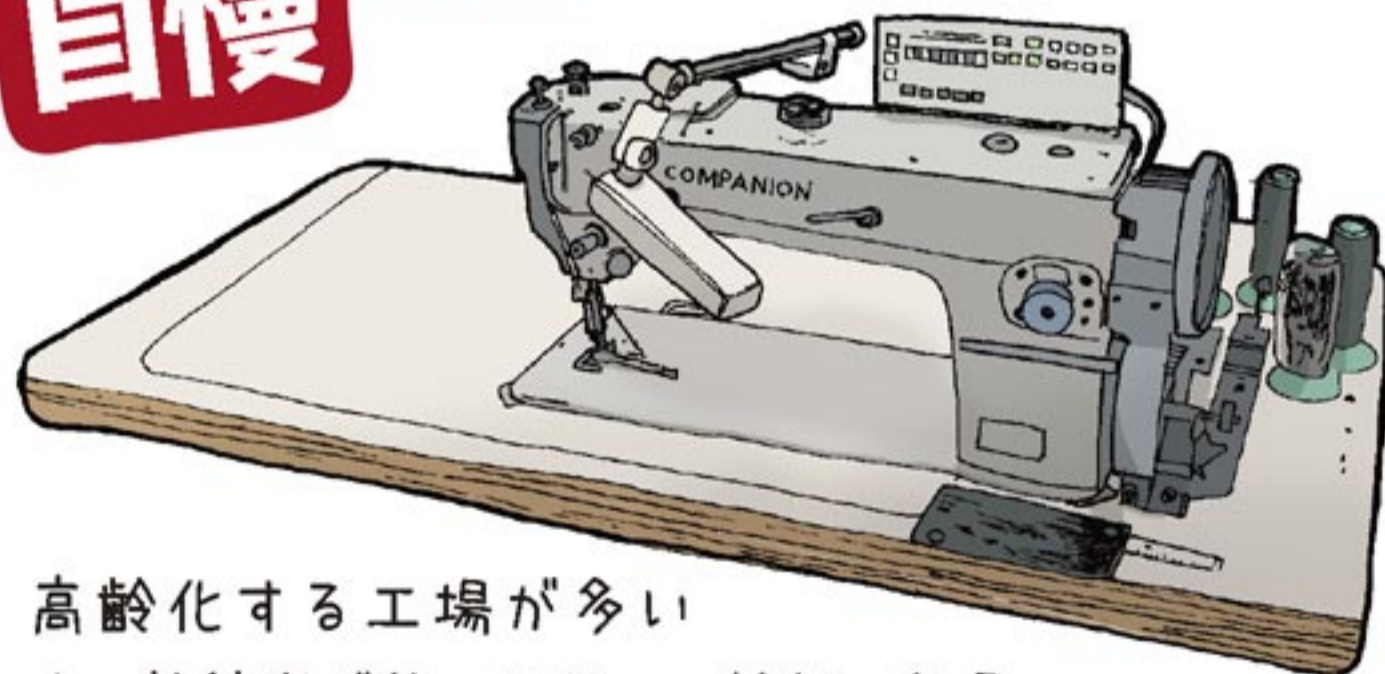
事業内容/マスターピースブランドのバッグの製造

長く大切に使いたい  
というお客様が多く、  
修理にもきちんと  
対応していきたい。



異なる素材を組み合わせることで、  
カラーや見た目に特徴をもたせる。

我が社の  
**自慢** 技術の継承



高齢化する工場が多い  
中、熟練者が若い世代への技術の継承  
をしていき、また切磋琢磨していく事によって技術の  
向上をはかっている。

スタッフの平均年齢は50歳くらいですが、  
20代前半のスタッフが増えてきています。  
乙階の縫製スタッフでは、地元の主婦の働きが  
数多く働いています。

